

25. 小堤遺跡

調査地 野洲市小堤 500 番
調査原因 工場建設
調査期間 令和 3 年 5 月 12 日

1. 調査経過

小堤遺跡は、旧石器時代から江戸時代までの集落跡と周知されている。

今回の調査は工場建設に伴う試掘調査で、当該地は令和 2 年度に試掘調査を実施しているが、その後計画が変更になり、建物建築範囲が拡大したため、追加で 2 ヶ所の調査区を設定して調査を実施した。調査区 1 は 4.0m × 2.0m、調査区 2 は 3.0m × 3.0m、調査面積は約 17.0㎡である。

2. 調査成果

(1) 調査区 1

地表面下約 2.2m まで掘削を行った。地表面下約 1.4m までは盛土（1・2 層）で、その下に明緑灰色砂質層（3 層）と暗灰黄色粗砂層（4 層）が続き、地表面下約 2.2m（標高約 105.2m）で褐灰色粘土層（5 層）を確認した。この粘土層が遺構面と判断でき、壁の崩落を防止するために限られた範囲内で検出を試みたが、遺構は確認できなかった。

(2) 調査区 2

地表面下約 1.8m まで掘削を行った。地表面下約 1.4m までは盛土（1～4 層）で、盛土直下の標高約 106.0m で地山である浅黄色粗粒砂混シルト（9 層）を確認した。この地山は調査区の南から北へ向けて急激に落ち込んでおり、平面でも明瞭に観察できた。落ち込みには植物遺体を含んだ砂などが堆積していた。地表面下約 1.8m まで掘り進めたが、水が染み出してきたため、安全確保のためにこれ以上の掘削を断念した。落ち込みは地形に起因するものと思われる。

3. まとめ

今回の調査では、遺構・遺物は確認できなかった。令和 2 年度に実施した試掘調査においても、遺構・遺物は確認されておらず、本調査地周辺は小堤遺跡の縁辺部にあたるものと評価できる。（芦塚）

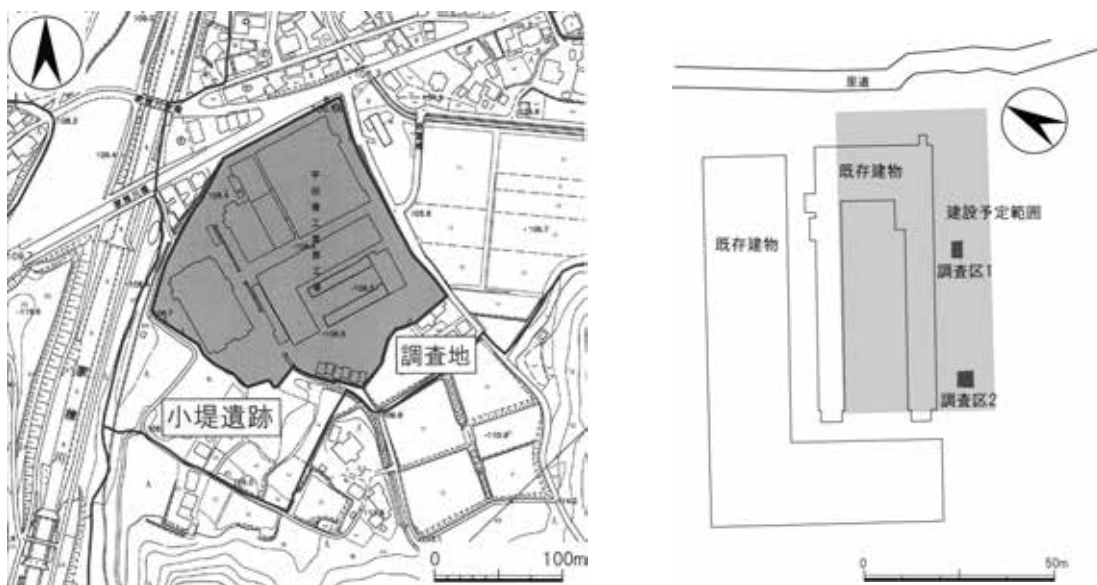
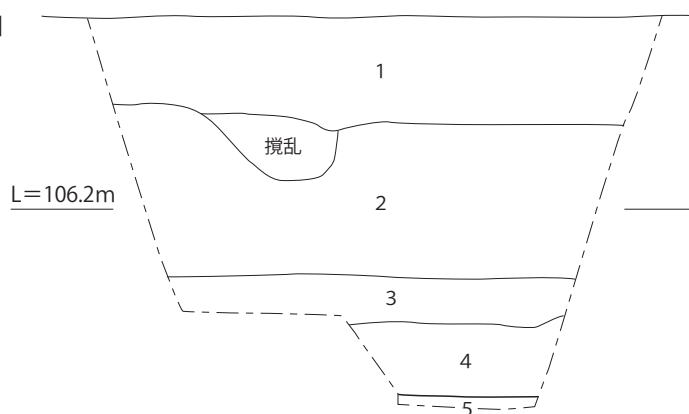


図1 調査地位置図・調査区配置図

25. 小堤遺跡

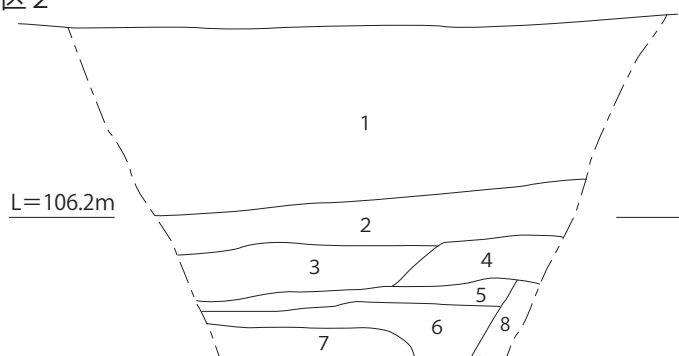
調査区 1



- 1. 盛土
- 2. 盛土
- 3. 明緑灰色 (10GY8/1) 砂質
- 4. 暗灰黄 (2.5Y5/2) 粗い砂
- 5. 褐灰色 (10YR6/1) 粘土



調査区 2



- 1. 盛土
- 2. 盛土
- 3. 盛土
- 4. 盛土
- 5. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂
- 6. 明緑灰色 (10GY7/1) 砂 (植物遺体を含む)
- 7. 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂
- 8. 灰白色 (5Y7/1) 粘土 (地山系の土が混ざる)
- 9. 浅黄色 (2.5Y7/3) 粗粒砂混シルト (地山)



L=106.2m

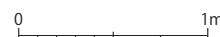


図2 調査区平面図・土層断面図



調査区1 全景（西から）



調査区1 東壁土層断面



調査区2 全景（南から）



調査区2 北壁土層断面